

暖帯性広葉樹材の流通(I)

— 都城原木市売市場における取引の一断面 —

林業試験場九州支場 安永 朝海
森田 栄一

1. はじめに

宮崎県都城地区製材業協同組合の昭和58年9月の一般市の資料を用いて、製材用素材を中心とする広葉樹流通の特徴について検討したので報告する。

なお、都城市を中心とする宮崎県南地域(都城市、小林市、えびの市、東諸県郡、西諸県郡、北諸県郡の地域)は、カシ類、シイ類等の暖帯性広葉樹に特色を持つ全国の主産地であって、都城地区製材業協同組合の市売市場はその流通の中心である。昭和29年設立、31年市売開始以来、徐々に取扱量を増大させるとともに広葉樹のウェイトを高めつつあり、暖帯性広葉樹用材に主体を置く代表的な市売市場である。

現在(昭和58年度)のところ、銘木市が年3回、一般定例市が銘木市の月は1回、その他の月は各2回開設されており、両者を含めた年間の取扱量は針葉樹、広葉樹を合わせて約3.5万㎡である。また組合員25名中、広葉樹の取引を行っているのは7業者である。

2. 樹種別取扱量

この一般市で落札された樹種群ごとの取扱量等は、

表-1に示した。まず、全体の中で占める広葉樹材の割合を見ると、件数で57%、本数で26%、材積で54%、価額で63%であって、本数を除けば広葉樹の方が針葉樹より多い。大体60%程度の水準である。

針葉樹の取扱樹種群は、「針葉樹込み」を含めてスギ、ヒノキ、マツ類、モミ、ツガ、カヤ、コウヤマキ、イヌマキの9樹種群である。しかし、その大部分はスギ、ヒノキ、マツ類の上位3樹種群であって、モミ以下は非常に少ない。

これに対し広葉樹の樹種群区分は、「カシ類込み」、「シイ類込み」および「広葉樹込み」を含めて、全部で33樹種群であって非常に多い。しかし、カシ類とシイ類は暖帯性広葉樹の代表的樹種であるだけに、その比率は高く、両樹種で全材積の58%、価額の45%を占める。なお、単一樹種で取扱材積の一番多いのはコジイ(全広葉樹の18%)でありイチイガシ(同じく16%)がこれに次ぎ、他の樹種はずっと少なくなる。

広葉樹の場合、取引の樹種群区分は非常に多様であって、極端な場合、1樹種1件というケースも多い。取扱量が比較的多いと見られる20件以上の樹種群は、カシ類、シイ類を含めて、表-1の7樹種群に過ぎな

表-1. 樹種別取扱件数、本数、材積、価額等

区 分	実 数				比 率				1 件 当 たり			平均単価 円/㎡	
	件数	本数	材積 m³	価 額 円	件数 %	本数 %	材積 %	価額 %	本数	材積 m³	価 額 円		
針 葉 樹	針葉樹小計	361	7,155	522.3	8,679,860	100	100	100	100	19.8	1.5	24,044	16,618
	スギ	184	3,169	212.1	3,834,920	51.0	44.3	40.6	44.2	17.2	1.2	20,842	18,084
	ヒノキ	69	2,879	200.3	2,421,120	19.1	40.2	38.4	27.9	41.7	2.9	35,089	12,087
	マツ類	64	340	70.5	1,414,370	17.7	4.8	13.5	16.3	5.3	1.1	22,100	20,049
	その他	44	767	39.4	1,009,450	12.2	10.7	7.5	11.6	17.4	0.9	22,942	25,621
広 葉 樹	広葉樹小計	471	2,570	619.8	14,912,770	100	100	100	100	5.5	1.3	31,662	24,059
	カシ類	138	978	227.1	5,384,110	29.3	38.1	36.7	36.1	7.1	1.6	39,015	23,708
	シイ類	57	528	131.9	1,292,400	12.1	20.6	21.3	8.6	9.3	2.3	22,674	9,798
	サクラ	45	149	28.8	1,181,480	9.6	5.8	4.7	7.9	3.3	0.6	26,255	41,024
	ミズメ	36	147	47.0	1,461,300	7.6	5.7	7.6	9.8	4.1	1.3	40,592	31,091
	クスノキ	29	156	30.8	688,870	6.2	6.1	5.0	4.6	5.4	1.1	23,754	22,366
	ケヤキ	25	127	21.9	1,284,950	5.3	4.9	3.5	8.6	5.1	0.9	51,398	58,674
	タブノキ	21	52	23.1	595,110	4.5	2.0	3.7	4.0	2.5	1.1	28,339	25,762
その他	120	433	109.2	3,024,550	25.4	16.8	17.5	20.4	3.6	0.9	25,205	27,697	
総 計	832	9,725	1,142.1	23,592,630	※	※	※	※	11.7	1.4	28,357	20,657	

いが、この7樹種群のウエイトは、件数では若干落ちるが、本数、材積、価額において約8割を占め、残りの21樹種群のウエイトはかなり低い。

3. 1件当たり取引量

1件、いわゆる1はえ当たりの本数、材積、価額は、多樹種、多規格を反映して非常に小さく、また樹種群によって大きな違いがある。本数によってそれを見ると、針葉樹平均で19.8本、広葉樹平均で5.5本であるが、一般に取引量の多い樹種、すなわち針葉樹ではスギとヒノキ、広葉樹ではカシ類とシイ類および「込みはえ」において比較的多く、他の樹種群では非常に少ない。

表-2は、1件当たりの本数の分布を示したものであるが、広葉樹取引件数の実に54.5%が1~2本単位のはえによって占められている。ミズメ、クスノキ、タブノキ、その他の少量取引樹種群では、その6割以上が1~2本のはえである。

本数、材積の少量取引に対応して、1件当たりの価額も、予想以上に低いが、広葉樹では、本数、材積とは逆に針葉樹より若干高額である。これは広葉樹の平均価格が、針葉樹よりも幾分高いためである。

全取引件数832件のうち、10万円以上のはえは3件にすぎない。

4. 規格別取引状況

はえごとの規格は、長級17種、径級11種に分類して集計、整理したが、ここでは、煩雑さを避けて針広別にその平均を表-3に示す。

まず長級について見ると、針葉樹については、件数においても本数においても、4mものが主流であり、3m、2mものがこれに続き、この3者の本数割合はあわせて96%を越える。これに対して広葉樹は、件数

表-2. 1件当たり本数別件数割合(%)

1件当たり本数		1~2本	3~5本	6~10本	11~50本	51本~
樹種区分						
針葉樹小計		30.2	18.3	12.5	30.4	8.6
広葉樹	広葉樹小計	54.5	24.0	10.0	10.0	1.5
	カシ類	50.0	21.7	13.1	12.3	2.9
	シイ類	38.0	26.0	10.0	24.0	2.0
	サクラ	44.4	40.0	15.6	-	-
	ミズメ	66.7	19.4	5.6	8.3	-
	クスノキ	65.5	20.7	3.5	6.9	3.4
	ケヤキ	56.0	20.0	20.0	-	4.0
タブノキ	81.0	9.5	4.8	4.8	-	
その他	61.6	26.7	4.2	7.5	-	
総計		44.0	21.5	11.1	18.9	4.6

表-3. 針広別・長級径級別構成比(%)

長級、径級区分		件数割合		本数割合	
		針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹
長級区分	2m未満	-	2.0	-	1.2
	2mもの	8.9	12.8	21.9	18.4
	3mもの	30.2	32.1	29.6	31.3
	4mもの	54.9	35.6	44.8	16.2
	5mもの	1.4	6.8	0.1	1.8
	6m以上	3.9	2.8	1.8	0.8
	乱尺、端尺込	0.7	7.9	1.8	30.4
径級区分	12cm以下	10.2	-	27.1	-
	13~30cm	51.5	45.7	24.9	48.8
	31cm以上	17.8	50.3	3.1	35.7
	その他込	20.5	4.0	44.8	15.6

割合と本数割合とが連動していないが、本数割合で見ると3mものが主流であって、2mもの、4mもの続く。また、広葉樹は針葉樹にくらべて短尺材がわずかながら見られ、端尺材を含む「込みはえ」の多いのが特徴である。

なお、ここでは「3mもの」、「4mもの」などとして表示したが、ここでの広葉樹材の取引は、3.3mあるいは4.3mという規格が多い。

つぎに径級区分について見ると、広葉樹では、13~30cmが最も多く、これについて31~40cmで、両者を合わせると8割以上となる。広葉樹の場合は、13cm以下の小径木が皆無であることと、針葉樹ほど「込みはえ」が多くないのが特徴である。

5. 樹種別価格

主要樹種と針・広の平均単価は表-1に示したが、同一樹種でも、規格、品質によって大きな価格差がある。たとえば、この市場での主要取引樹種であるイチイガシの平均単価は33,538円であるが、最高31万円から最低5千円までの幅がある。

次にイチイガシの平均価格を基準にしたところの、価格差による樹種区分を示す。

A 高価格樹種群(イチイガシの1.5倍以上)ケヤキ、ネムノキ、ツバキ、センダン、キハダ、モッコク、ハゼノキ、ニガキ

B 基準価格樹種群(イチイガシの0.5~1.5倍)シラカシ、アカガシ、クスノキ、ミズメ、サクラ、タブノキ、シデ、カエデ、ブナ、ニレ、ホオノキ、クロモジ、イスノキ、カツラ、ハリギリ、クロガキ

C 低価格樹種群(イチイガシの0.5倍未満) イタジイ、コジイ、クルミ、カシ類込み、広葉樹込み

ただし、上記のうち下線をほどこしたものは、価格変動幅の大きい樹種群である。